

特定テーマによせて

IT(情報技術)と当社の取組み

中央研究所長 潟岡 泉

インターネットの爆発的拡大、携帯電話の急速な普及、iモードサービスの急進展、eコマースの立上がり等我々の身のまわりで日々展開されている情報社会の変貌は目を見張るものがあります。

これらの流れに遅まきながら乗るべく、政府もIT基本法を定め今年1月6日より施行の運びとなりました。この法律は周知のように、国のIT戦略会議の中でまとめ上げられたもので、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部が設置され、具体的な重点計画が策定、実行されることになります。

このポイントは、国民に極めて安価にインターネットを常時接続可能とするもので、通信インフラを公正、かつ公平に利用できる様にする為のルール作りと、国が提供するすべての行政手続きを実質的にインターネット経由で可能とする電子政府を2003年までに実現しようとすることです。

これらの流れの中から予測されることは、21世紀には社会、経済、文化のあらゆる面での、大きな変革がITを通じて襲来するということで、「IT革命」と言う言葉がまさに現実のものになろうとしています。

このような変革を下支えする産業の発展が、あるいはこの流れに乗った様々なビジネスのチャンスが大きく広がっていることは明白で、当社においても、1990年代から進めてきた情報社会での情報伝達に重要な役割を果たすフォトリックネットワークビジネスへの製品開発、展開を今後さらに強力に進めていく方針で、それは最近のIR活動の中でも表明してきています。

すなわち、当社では従来から航空宇宙用のセンサー開発に用いてきた高度なプロセス技術をベースに、超高速光変調器や、超高性能光フィルター等フォトリックネットワーク用の様々なデバイスの開発、製品化を進めてまいりました。また、超小型加速度計に代表されるMEMS(Microelectromechanical Systems)技術は、微小なオプティカルスイッチ等の開発に結びつけられています。さらに、これらの製品群をバックに昨秋新たに光デバイス事業部が発足いたしました。

今回のIT関係の技術開発の特定テーマは、このような流れを背景に企画され、直接情報インフラや端末に関わるテーマから、同システムをいかにうまく利用していくかという多岐に渡るテーマを取り上げています。

本特集が多少なりとも皆様のお役に立つとともに、これらの紹介内容について皆様の忌憚のないご意見を賜れば幸いと存じます。